

クォーター かわさき 通信

2021年11月号 No.19 11月8日発行

発行 ●一般社団法人／川崎地方自治研究センター
発行人 ●久保田 昌希
連絡先 ●川崎市川崎区東田町5-1 市労連会館3F
Tel/Fax 044-244-7610
Email: KYP04423@nifty.com

- ・報告・横浜市長選挙
- ・川崎の市民活動⑬「かわさき若者会議」他／那須野純花
- ・2021年度総会報告
- ・市民シンクタンク研究会
- ・おススメの本 テスカトリボカと川崎にちなむ本
- ・自治研センター活動日誌 川崎市の動き

【報告】横浜市長選挙 市民の勝利！ コロナ禍の中、乱立を制す

今年、任期満了寸前で衆議院解散総選挙が行われました。原稿を書いている時点では、その結果は分かりませんが、久しぶりの政権選択選挙になりました。また、神奈川県内では、横須賀、横浜、鎌倉、川崎などの自治体の首長選挙が行われました。その総括は、とりわけ当地の川崎市長選挙については次号に詳述します。今回は、コロナ禍の中で実施された横浜市長選挙について報告します。同選挙では、市民の力が大いに発揮され、今後の地方自治について、大きな一石を投じたものになりました。（記・板橋洋一）

1. 横浜市長選挙総括

2021年8月22日、日本第二の巨大都市横浜市長選挙で、市民のうねりが大きな勝利をもたらした。統合型リゾートIR＝カジノ誘致という争点をめぐり、8人の有力候補者が立候補したが、立憲民主党らが推薦する山中竹春氏が下馬評を覆す圧倒的な勝利をつかんだのだ。（表1）

この選挙結果は、国政を大きく揺るがすものとなり、地元横浜市選出の菅義偉首相の退任という政局に結びついた。このことから、一つの地方自治体の首長選挙にもかかわらず、さまざまなメディア、有識者から大きく論評された。それらをは大きく次のようにまとめることができる。

●候補者について

・8人という大勢の候補者が立候補した。林文子現市長、小此木八郎現衆議院議員・防災大臣（自民党）、松沢成文元神奈川県知事・現参議院議員（日本維新の会）、田中康夫元長野県知事という名うて

表1

横浜市長選挙開票結果			
2021年8月22日執行			
山中竹春	506392	松沢成文	162206
小此木八郎	325947	福田峰之	62455
林文子	196926	太田正孝	39802
田中康夫	194713	坪倉良和	19113

の候補者に加え、野党及び市民統一候補としての山中竹春横浜市大教授、その他太田正孝現横浜市民会議議員、福田峰之元衆議院議員（自民党から希望の党）という有力候補者がそろったこと。

●争点について

- ・菅総理が旗振りとなっているIR＝カジノの横浜誘致に向けての賛否が、大きな争点になったこと。
- ・また菅総理が主導した8月の東京オリンピック・パラリンピックの強行開催により、コロナ感染患者が大幅に増え、コロナ対策が喫緊の課題になったこと。

●選挙戦について

- ・IR＝カジノ誘致をめぐり、推進していたはずの自民党、経済界が世論に押され、自民党の最有力候補の小此木衆院議員が反対に回り、推進派の林市長との分裂選挙になったこと。
- ・田中氏、松沢参院議員もIR＝カジノ誘致に反対し、賛成2人、反対6人となり、IR＝カジノ誘致反対が大勢を占めたこと。そのため、反対票が分散

する恐れがあった。

- ・山中教授が、コロナの専門家であったこと。また、国政野党である立憲民主党、共産党の支援を受け野党共闘が成立し、反菅総理が鮮明になったこと。
 - ・そして、決定的なのは、地元出身にも関わらず、菅総理の不人気、大きく影響したこと。
 - ・その結果、コロナ禍にも関わらず、投票率が49.02%と前回の37.21%を大きく上回ったこと。
- などがあげられる。

その他細かくみれば、争点については、中学校給食のあり方、上瀬谷地区の開発、巨大劇場の建設、旧庁舎の売却など林市長が進める政策への是非も問われた。候補者選考においても政党政派を超えたさまざまなドラマがあり、結果的には短期決戦になったため大味な選挙になってしまったこと、また安倍-菅の長期政権への賛否が問われたことなどがあげられる。

選挙前は、有力候補者の乱立により、それぞれの候補が法定得票数の4分の1を超えられず、再選挙も想定されていたにも関わらず、山中竹春候補が圧勝した。そのことにより、敗者の小此木、林両氏は政界からの引退を余儀なくされ、野党共闘による勝利は、全国的な耳目を集め、菅総理退任の引き金になった。

山中新市長の船出については、政治家として未知数、船頭が多い支援団体、市議会の少数与党、IRや劇場建設中止にとどまらない政策課題が山積するなど、前途は多難（雑誌「世界」10月号土屋直也レポート参照）であるが、1978年3月に途絶えた飛鳥田革新市政が40年余ぶりに再現されるか、横浜市民だけでなく、全国の地方自治体からも注目される場所である。

2. 市民主体、都市内分権への期待

前項では、ざっと市長選挙を総括してみたが、本項ではその中でも、市長選挙勝利に導いた市民の動きに注目したい。

筆者は、数年前から、IR=カジノ誘致への横浜市民の判断=横浜市長選挙は国政に大きな影響を与えると直感していた。安倍-菅の長期政権が強引に進めるアメリカ資本への従属を示すものの一つとしてカジノがある。その利権に貪りつこうとする地方自治体は、横浜市以外にも、竹中平蔵氏に結びつく

大阪維新の会の大阪市があり、観光産業を推進する二階俊博自民党幹事長出身の和歌山市がある。そして、菅官房長官（当時）が誘致の先鋒となったのが横浜市であった。

しかしながら、横浜市はギャンブル政策に反対する市民、そして横浜実業界のドンである藤木幸雄氏が推進派の商工会議所と対峙して、カジノ誘致の反対に回っていた。ちなみに藤木氏は菅総理および小此木大臣の後ろ盾でもあった。そして、昨年秋に菅総理が誕生したときに、政局を揺るがすものになると予想した。

コロナの感染状況が収まらず、Go Toキャンペーンの失敗、ワクチン接種の遅れ、1年延期した東京オリンピック・パラリンピックの強行開催、小池東京都知事や他の知事との確執等々、加速度的に追い込まれていく菅総理の貧相な姿がメディアであらわになった。そして自民党の都議選の伸び悩みや国政補欠選挙の敗北によって、がぜんお膝元の横浜市長選挙がメディアの標的になっていく。それが横浜市長選挙の結果であった。（この間、市民と実業界、政党などの複雑な関係に粘り強く連帯・結束を求めて奔走した斎藤勁元官房副長官衆・参議院議員から多くの示唆をいただいた。）

しかし、そういった政局・国政がらみを見るまでもなく、市長選挙に臨む前から、すでに雌雄は決まっていたとの筆者の見立てである。

本紙前々号（No.17、5月10発行）の巻頭記事は、生活クラブ運動グループ・横浜未来アクション世話人代表の若林智子さんから「市民の政府を生み出す力に変えようーカジノ・IR住民投票条例制定運動を振り返る」であった。

そこで論じられたのは大都市横浜で、住民投票条例の請求に必要な法定数、有権者数の1/50の62,541人の3倍を超える193,193人の有効署名を集めたエネルギーと、その努力をいとも簡単に無視した林市政と市議会への怒りであった。今年2021年1月に、市民の思い、市民自治への期待が裏切られたことへの怒りは、半年たっても鎮まることはなく、説明責任を逃れる林市長と菅総理の政治姿勢が重なり、怒りのエネルギーは増幅されていったといっても過言ではないだろう。

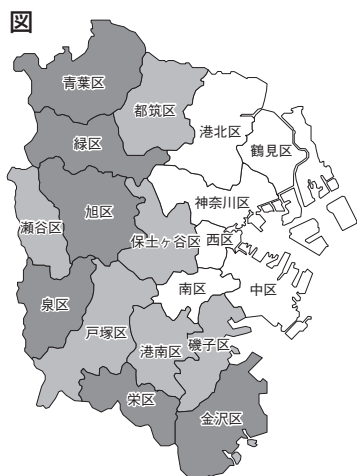
その怒りのエネルギーが選挙結果にどうつながったかをみてみたい。表2は、若林さんから提供いた

だいた住民投票条例制定の署名運動の目標達成率と今回の投票結果の山中候補の得票率を重ねたものである。左欄二つは、それぞれを行政区の高い順に並べたものであり、右欄は二つの順位を点数化し、区ごとに並べその合計をたしたものである。そして、横浜市の地図は18区をその合計点を基に、上中下6区ずつに分け、色分けしたものである。

表からは住民投票率の高い区と得票率の高い区が重なることが分かり、地図からは横浜市の中心部（政治・経済）は低く、それを囲むように高い区が連なることが分かる。なお、磯子区は、カジノにいち早く反対を表明した候補者の太田正孝市議の地盤であることから、山中候補の得票率が下がった。

つまり、二年余にわたりIR＝カジノ誘致に反対し、住民投票条例制定運動に結び付けた市民の思いが、そのまま市長選挙で山中候補の高い得票につながったことを証明するとともに、地図は中心部から離れた住宅地域が山中候補を支持したことを示している。選挙前に、IR＝カジノは横浜市南部の話であり、北部住民はシラケているといううわさが流れたが、カジノ反対、山中支持への熱さは、投票行動として現れたといえる。

このことから、市長選挙＝市政選択の結果は、比較的IR＝カジノ誘致に賛意を示したもしくは小此木・林票も含めて保守系への支持が高かった南部地域への北部地域のノンの姿勢であったともいえるのではない。もちろん、投票行動はさらに複雑に見なければならないが、業界や労働団体など保守系・



旧革新系も含めて既存組織がまだ力を持っていると思われる地域の地盤沈下がみてとれる。その原因を、横浜市に在住・在勤しているわけではない筆者には詳しく分析することはできないが、すでに川崎市では8年前の市

表2

順位	住民投票目標達成率	市長選挙山中候補得票率	区名	住民投票順位	選挙得票順位	合計
1	金沢区 436.12	栄区 37.17	鶴見区	15	18	33
2	緑区 363.78	青葉区 36.87	神奈川区	18	16	34
3	旭区 354.34	金沢区 36.5	西区	14	15	29
4	青葉区 352.48	旭区 35.37	中区	17	17	34
5	磯子区 351.68	緑区 34.91	南区	11	14	25
6	瀬谷区 347.41	都筑区 34.23	港南区	7	10	17
7	港南区 339.39	泉区 34.15	保土ヶ谷区	9	8	17
8	泉区 313.93	保土ヶ谷区 33.91	旭区	3	4	7
9	保土ヶ谷区 310.91	戸塚区 33.75	磯子区	5	13	18
10	栄区 303.36	港南区 33.72	金沢区	1	3	4
11	南区 302.88	港北区 33.7	港北区	16	11	27
12	戸塚区 285.45	瀬谷区 32.39	緑区	2	5	7
13	都筑区 273.53	磯子区 32.24	青葉区	4	2	6
14	西区 271.06	南区 31.34	都筑区	13	6	19
15	鶴見区 270.93	西区 30.79	戸塚区	12	9	21
16	港北区 259.97	神奈川区 30.75	栄区	10	1	11
17	中区 226.23	中区 30.09	泉区	8	7	15
18	神奈川区 223.26	鶴見区 29.89	瀬谷区	6	12	18

長選挙でその兆候が表れていたことを、指摘しておきたい。今後の横浜市政を進めるうえで、政治状況を見誤らないための示唆を投票結果が示したものである。つまり、横浜の経済の中心部といわれた地域の政治的影響は薄まり、北部地域の市民意識が政治的影響力を強く持ったということなのではないかということだ。

●ある小説からの警鐘

以前、「横浜大戦争」（蜂須賀敬明著文藝春秋社2017年刊、第4回神奈川本受賞）を読んだことがある。神奈川県を中心はどこかという酔狂な話題に、歴史のある小田原や鎌倉、横須賀、藤沢が、県庁所在市の巨大都市横浜を向こうに、我こそが神奈川の中心地であると名乗りをあげて混乱する。その原因は、横浜の中心が分からないことにあるとの結論になった。そこで、横浜市は歴史も成り立ちも異なるそれぞれの区が分裂しながら進化した結果、中心が定まらなくなったということで、あらためて各区が覇を競い横浜の中心を決めようという破天荒な小説である。結果は、瀬谷区に決まりかけたが、あらためてそれぞれの区が横浜市を構成するものとして共に頑張ろうという大団円になるのであるが、まさに巨大な政令指定都市の自治のあり方を示唆している。

この小説が警鐘したことを理解すれば、そもそも横浜の中心部にIR＝カジノを誘致することが横浜市の今後の財政の安定につながることに、都市内分権、市民自治をないがしろにする思想の間違いがあったことに気づかされるのである。

川崎市も他山の石としたい。

「市民シンクタンクのあり方研究会—with／afterコロナ・人口減少時代における市民シンクタンクの可能性について」中間報告

新型コロナウイルスがパンデミックを起こして既に1年半を経過している。日本の感染状況は、世界的にみれば比較的小さいとされているが、国内のコロナ対策は混乱をきたしている。

この影響は、地方自治にも及んだ。これまでの新自由主義に基づいた強引な行財政改革の推進は、医療・保健、福祉などの市民生活に直結する分野でも、人員・予算の削減、組織の解体などが進んだ。その結果、政府のランダムな指示の下請け機関として忙殺され、新型コロナウイルスの検査、感染者のケア、医療サービスはひっ迫し、不平等や格差が拡大していった。

危機管理体制についても同様である。一部の有識者からは、外国の事例を持ち出し、国家・政府機能に権限を集中する中央集権的危機管理体制によって効率化を図るメリットが強調されるなど、地方分権の流れに逆行する意見も生まれた。

このような中、コロナ後の地方自治のあり方を、地方分権を推進する立場から早急に研究する場が必要となった。

神奈川県内には、神奈川県、川崎、横浜、相模原、藤沢、横須賀の各市に自治研センターが設置されており、また市民の立場から生活クラブ運動グループを母体とした参加型システム研究所、(一社) 勁草

塾を加え、今年2月から表題の共同研究会を発足させた。コロナ禍の中で、リモート設備も駆使しながら、以下のように研究活動を進めている。

【参加団体】

(一社) 川崎地方自治研究センター、(公財) 神奈川県地方自治研究センター、横浜地方自治研究センター、相模原地方自治研究センター、横須賀地方自治研究センター、藤沢地方自治研究センター、(特非) 参加型システム研究所、(一社) 勁草塾

【開催経過】

- 第1回 2月17日(水) 研究会発足にあたって
- 第2回 3月19日(金)
テーマ「市民シンクタンクの役割と期待—財政の視点から」
講師 其田茂樹地方自治総合研究所研究員
- 第3回 4月16日(金)
テーマ 「ポストコロナと人口減少社会におけるコミュニティの変容について—横浜市市民意識調査の活用事例から」
講師 中川久美子横浜市長官邸調査研究センター職員
- 第4回 6月4日(金)
テーマ 「脱炭素社会に向けた地球温暖化対策」
講師 田中充法政大学教授・相模原地方自治研究センター副理事長
- 第5回 7月5日(金)
テーマ 「新たな公共—生活クラブ運動グループから」
講師 井上雅喜参加型システム研究所長
大石高久神奈川県生活クラブ市民生活基金専務理事
- 第6回 7月14日(水)
テーマ 「コロナ禍の自治体—2021予算と今後の課題」
講師 飯塚正良川崎市議会議員、堀添健川崎市議会議員、角井基横須賀市議会議員、大矢徹藤沢市議会議員
- 第7回 9月14日(火) これまでの振り返りと今後の進め方
(記・板橋洋一)

自治研センター活動日誌 2021年7月～9月

7月

- 1日 木 ヘイトスピーチ学習会
- 4日 日 ヘイトスピーチ川崎駅前街宣
- 5日 月 第5回市民シンクタンク研究会
- 8日 木 自治研センター理事会(書面)
- 9日 金 寺島文庫カフェ
- 10日 土 第4回子どもの権利条約フォーラム実行委員会
- 14日 水 第6回市民シンクタンク研究会
- 15日 木 精神障がい者生活支援フットケア講習会
- 24日 土 ヘイトスピーチ川崎駅前街宣
- 26日 月 ヘイト事務局会議

8月

- 2日 月 クォーターリーNo.18発行
- 8日 日 第5回子どもの権利条約実行委員会

- 14日 土 ヘイトスピーチ川崎駅前街宣
- 24日 火 市民シンクタンク研究会打合せ
ヘイト事務局会議
- 30日 月 第6回事務局会議
- 31日 火 市民シンクタンク座長・副座長会議

9月

- 10日 金 会計監査
文庫カフェ
- 12日 日 第6回子どもの権利条約実行委員会
- 13日 月 第1回自治研センター理事会(書面)
- 14日 火 第7回市民シンクタンク研究会
- 16日 木 ヘイトスピーチ戸手教会打合せ
- 28日 火 ヘイト事務局会議
- 29日 水 自治研センター事務局会議・総会

クローズアップ／川崎の市民活動⑬

ごみ拾い活動から若者会議まで ～「まちおこし」への想いを磨く～

NPO法人「グリーンバード」武蔵小杉チームリーダー／「かわさき若者会議」呼びかけ人
那須野 純花さん



消防車の前に立つ
那須野純花さん

今回紹介する那須野純花（なすの あやか）さんは、2020年春に大学を卒業したばかりで、本シリーズに登場する人としてはもっとも若い。聞き役として、うまく若者の声を汲みとることができるか、半ば不安をもちながらの取材であった。しかし、彼女の話は不安より先に驚きのほうが早かった。那須野さんの行動と発想のユニークさは、率直にいて筆者の予想をこえるものがあった。だが話を聴くうちに、一見突飛とも思える行動には一本筋の通ったものが流れていた。しかもその根底には、川崎への熱い思いがあふれており、納得であった。

多彩かつ斬新な行動範囲

那須野さんの肩書として、二つ（「グリーンバード」武蔵小杉チームリーダー、「かわさき若者会議」）をあげておいたが、実際の活動はもっと多彩である。日ごろは東京の広告代理店を仕事場とするごく普通の24歳の女性だが、活動の範囲とその濃さは、業務の傍らでこなせる域をこえている。それを楽しげにこなす姿は若さゆえの特権だろうか。

那須野さんの活動歴をいくつかあげれば、まず川崎市幸消防団3分団の団員である。また同じ幸区の地域課題対応事業「コミュニティカフェ実行委員会」の委員長もひきうけている。さらに過去には、市立川崎高校の課外授業も担当しているし、川崎北部など地場野菜の販売促進にも関わっている。それだけでなく地元川崎の魅力発信の思いをこめ、web情報紙（川崎経済新聞）のライターを4年以上つとめてきた。さらに活動は海外までおよび、高校時代はガーナの小学校建設の支援やフェアトレードの実務も担ってきた。

さらにびっくりしたのは、彼女は耳つぼセラピストの資格をもっている。なぜ取得したかといえば、お年寄りなどの心をひらき、それをまちおこしに活かすツールとして有効だと考えたからである。こと

ほどさように那須野さんの行動は多分野にわたりかつ斬新である。何が彼女の活動の原動力になっているのだろうか、筆者ならずとも聞きたくなってくる。そのことを尋ねると、彼女は屈託なく、いじめ体験です、と答えてくれた。

いじめ体験のなかで人の“痛み”を知る

那須野さんは小学4年から中学卒業までの6年間、“ワル”仲間のいじめに遭ってきた。彼女は一人っ子で、小さいころから一人で絵を書いたりして過ごすのが好きで、周りの子たちとうまく距離感をもって付き合うのが苦手だった。そのためクラスでも浮いた存在とみられていたようだ。おそらくそこを狙われ、いじめのターゲットになったのだろう。他の子たちはいじめに巻き込まれるのを恐れて、知らんぷりしていただろうし、学校も、注意する以上の対策があったわけではない。そんななか那須野さんは、いじめで苦しむ姿を周りにみせまいと気丈にふるまい、学校を休むこともなかった。学校での彼女の唯一の居場所は保健室で、孤独な6年間だったという。

高校は苦しい思い出しかない川崎から離れたい一心で、東京の学校を選ぶ。高校生になってようやく暗い生活から開放され、部活でテニスを楽しみ、友人もできる。だが、付属高校だったこともあってか、学校の雰囲気はのんびりしており、逆にもの足りなさも感じはじめる。高校2年のとき学校と家庭の他に、もう一つ居場所がほしいと思いたち、出会ったのが西アフリカのガーナと交流しているNGO団体であった。上に記したフェアトレードなどの関わりはここからはじまっている。

なぜガーナだったのか。いじめ体験をくぐるなかで、貧困に苦しむガーナの人たちの心の“痛み”を自分事として感じることでできる想像力を育んできたのだろうか。ガーナとの国際交流をきっかけにし

武蔵小杉に集うごみ拾いチーム
グリーンバードのメンバー



て、彼女の心は、それまでのネガティブな思考を脱し、一気に外の世界に向かってはじめていく。

ごみ拾いをまちづくりのテコに

高校3年のとき、那須野さんは国際交流の仲間を通して、街中のごみ拾いを実施するボランティア集団、NPO法人「グリーンバード」の存在を知る。「グリーンバード」はくきれいな街は、人の心もきれいにするをコンセプトに、2003年に東京原宿の表参道で誕生。参加の事前登録もなければ、清掃道具の持参も不要、いつでも誰でも自由に参加できるというシンプルさが売りで、今や海外を含め全国各地で80チームが活動している。

那須野さんは川崎駅前で活動するチームに加わり、最初はメンバーの一人として活動していたが、しばらくして、もともとあった不定期開催のU18メンバーを任されるようになる。そこで彼女は活動場所を武蔵小杉に定め、新たなチームを立ち上げる。

那須野さんにとって武蔵小杉は東京の高校に通学する際の乗り換えの街であり、いわばホームグラウンドである。そこをあえて活動拠点に選ぶことで、川崎に対するつらい思いを断ち切り、再出発するきっかけにしたかったのかも知れない。

＊

武蔵小杉駅周辺のごみ拾い活動は、毎月第3日曜日、午前10時から約1時間である。参加者の数はだいたい20人前後、初参加の人が半分くらいになる月もあるという。参加者の年齢、経歴はバラバラで、同世代との付き合いが多かった彼女にとって、最初はどう向きあえばいいか、とまどったようだ。しかし、まったく知らなかった世界の人たちに出会える好奇心や喜びのほうが大きく、ごみ拾いの場はしだいに学びの場になっていく。

街中にポイ捨てされたごみの処理は、そのために雇われた人に担ってもらえばいい、と大半の人は考

えるだろうし、誰しもそれ以上の関心を示そうとはしない。しかし、無用な存在にすぎないごみに視線を落とし、そこから人々の行動や街の光景をながめれば、日々の暮らしのなかで見落としてきた〈何か〉が見えてくる。その共感がベースになり参加者同士、さまざまな思いを語り合う対話がはじまり、まちおこしのためのアイディアも生まれてくる。ごみ拾いをツールとした新たなコミュニティの誕生である。

なお「グリーンバード」の活動は、コロナ禍で2020年3月から6月まで休止していたが、いまは再開。川崎では現在5つのチーム（川崎駅前、武蔵小杉、溝の口、新百合ヶ丘、専修大学）が活動中である。

災害救助に欠かせない女性の視点

那須野さんが消防団（川崎市幸消防団3分団）に入るきっかけは2019年10月12日の台風19号による豪雨であった。まだ記憶に新しいが、川崎市は多摩川沿いを中心に甚大な被害をうけ、ピーク時には3万人の市民が避難所に駆け込む事態となった。武蔵小杉駅周辺も内水氾濫でマンションや家屋が床下、床上浸水し、多大な被害をうけた。大都市がいかに災害に弱いのか、あらためて思い知らされる出来事であった。

那須野さんにとって活動拠点の被災であり、復旧の手伝いをと焦ったが、当初はどこにもボランティアを受け付ける窓口がなく、被害の状況はSNSで知るだけだった。ようやく数日後に現地に入るが、冠水で家屋からでてきた家具類や電気製品など、おびただしい廃棄物が山のように積み上がった光景にショックをうけた。

家屋の泥かきなどに関わったが、復旧作業は思い通りにはかどらない。また、風が吹けば乾いた土埃が舞い上がり、健康への影響など、復旧作業に必要な知識や技術を身につけておらず、くやしい思いをした。そこで一念発起して、復旧作業で知り合った消防団員を通じ、地元幸区の消防団（身分上は非常勤特別職の公務員）の門をたたき決心をする。

消防団では心肺蘇生法や消防車のポンプ操作、避難者救出用のボートの扱い、目や耳が不自由な人の救済方法など、災害救助に必要な知識や技術を多く学ぶことができた。また地元の人たちと顔の見える関係ができたこともうれしかった。しかし、那須野

さんにとって何より収穫だったのは、災害救助で女性の果たすべき役割がけっして小さくないことを確認できたことだった。

一刻を争う被災現場は、子どもやお年寄り、身障者など弱い立場の人たちへの配慮がおろそかなり勝ちになる。だが、そうした人たちの避難行動や困り事に細かく気を配ることは、緊急時であればあるほど重要になってくる。「災害支援はけっして力仕事だけでは終わらないのです」と語る姿を頼もしく感じた。ここにも一貫して小さきもの、弱者の側に身を添わせながら地域社会に関わろうとする那須野さんの熱い思いがうかがえる。

「かわさき若者会議」を立ち上げる

那須野さんたちは今年4月から新しい活動をはじめた。25歳以下の若者たちが川崎のまちおこしに貢献したいと立ち上げた「かわさき若者会議」（以下、若者会議）である。当初、25名ほどでスタートしたが、現在は70名を超えるほどになっている。メンバーは高校生や大学生の他、社会人等々、多種多様なバックグラウンドをもった若者たちが参加している。会として代表者はおかず、川崎の各地で活動する若者たちをゆるくつなぐプラットフォームをめざしたいという。

冒頭に紹介した幸区のコミュニティカフェ事業は那須野さんが若者会議の有志を募ってはじめてのものである。小学生を対象とした夏休みの自主研究のサポートで、幸区の歴史や災害時の避難ルート、身近な場所のバリアフリーの調査などをおこなった。来春からはシニア世代を対象に「スマホ教室」も予定している。



災害救助訓練

（高津区大蓮寺にて）
かわさき若者会議



若者会議の活動はスタートしたばかりで、本格的な活動はこれからだろうが、興味をそそられたのは会議の場所であった。キックオフの会場は高津区久本の大蓮寺で、2回目は幸消防署であった。那須野さんの発案だろうが、2つとも若者にとって一般受けする場所ではない。にもかかわらず、なぜそこが選ばれたのだろうか。

考えてみれば、お寺も消防署も人間のくいのち>に深く関わり、人間存在の小ささ、弱さを実感させる場所である。同時に、お互い支え合って生きていくことの大切さに気づく場所でもある。この2つの場所選びから、「若者会議」がどういう価値観を根っこにおいてまちおこしにチャレンジしようとしているのか、理解できるような気がした。那須野さんたち若者の活動が、川崎にしっかり根づくことを楽しみにしたい。

（取材：大矢野修）

2021年度総会報告

コロナ禍の緊急事態宣言下にありましたが、会員に書面評決、委任状の提出を求め、9月29日（水）18時から市労連会館5階講堂で、2021年度総会を開催しました。

昨年度の定款変更により、2021年度の事業計画案および予算案は、7月5日の理事会（すべて書面表決）で承認されましたが、今総会においては、2020年度の事業報告および決算・監査報告案、役員の一部変更について協議しました。参加者、書面評決文書、委任状を含め、いずれも賛成多数で承認されました。

多くの事業が停滞を余儀なくされています。早くコロナが収束し、地方自治の確立に向け、当センターが通常通りの諸会議が開催され、事業が遂行されることを願ってやみません。

【役員体制】いずれも2022年度総会まで
 理事長 板橋洋一（兼専任研究員）
 常務理事 久保田浩敬（川崎市職員労働組合書記長）
 理事 藤吉誠一郎（川崎地域連合議長）
 佐野めぐみ（かわさき生活クラブ生活協同組合理事長）
 村松秀幸（川崎市職員労働組合執行委員長）
 嶋田和明（川崎市教職員組合執行委員長）

監事

嶋 清和（川崎水道労働組合執行委員長）
 船生浩市（川崎市立病院労働組合執行委員長）
 飯田昭彦（川崎市下水道労働組合執行委員長）
 館 克則（川崎地域連合事務局長）
 斎藤慶一（川崎交通労働組合執行委員長）
 福澤充弘（川崎市職員労働組合書記次長）

【事務局体制】

事務局長 久保田昌希（川崎市職員労働組合中央執行委員）
 事務局次長 吉川 早（川崎市教職員組合教文部長）
 渡利 誠（川崎市職員労働組合書記次長）

顧問

江井 茂
 峰岸是雄

専任研究員 主任研究員 研究員

板橋洋一
 大矢野修
 片井博美
 星 雅之
 金 倫貞（東京都立大学准教授）
 金 智美（韓国・慶南大学校教授）

客員研究員

おススメの本

「テスカトリポカ」と川崎にちなむ本

佐藤究著 角川書店

「テスカトリポカ」は、2021年度上半期の直木賞受賞作品である。メキシコ、インドネシアのジャカルタ、そしてなぜか川崎を舞台にスリリングに展開するバイオレンス小説である。古代メキシコのアステカ神話の悪魔の神である「テスカトリポカ（煙を吐く鏡）」をタイトルとするが、国際的な麻薬密売組織や臓器売買といったアンダーグラウンドの世界が読者を魅了する。

桜本、小田栄、大宮町、高津図書館、等々カアリーナ、ブレイブサンダースなど、川崎市民になじみが深い地名や固有名詞が目に見え込む。もちろん、すべてがフィクションではあるが、なぜか「そうかもな」といったリアル感に襲われる。あの倉庫、その外国料理店、この工場が目に見え込む、暴力、麻薬密売、臓器生体移植手術が行われる様が既視感のように写る。川崎のダークなイメージが増幅されていく。

なぜ、このような小説が生まれたのだろうか。川崎のディープサウスの悪いイメージを払拭することはできないのか。そんな疑問をもちながら、この数年読んできた川崎に関する本をいくつか挙げてみたい。

発端は、2015年2月に大師河原で起きた中学生男子殺人事件のようである。石井光太著「43回の殺意」（双葉社）は、その事件を裁判資料から克明に記述する。磯部涼著「ルポ川崎」（CYZO）は、事件の背景にある川崎のディープサウスの風俗、文化取材した。細倉真弓の同名の写真集も出版された。磯部は、登戸で児童を襲った無差別刺傷事件を題材に「令和元年のテロリズム」（新潮社）も著した。川崎北部の新興住宅地域で起きている家族崩壊に焦点を当て、その兆候を1980年に宮前区で起きた「金属バット事件」佐瀬稔著（草思社）に見た。藤原新也は「東京漂流」（情報センター出版局）でそのことを明らかにした。

小説では、島田雅彦は自伝小説「君が異端だった頃」（集英社）で、著者が青春時代に体験する川崎の南北問題によるカルチャーショックを描いた。三浦しをんの「光」（集英社＝映画化）では、川崎市

港湾局の職員が子どもの頃に犯した殺人をネタにゆする幼な友達を再び殺した。「テスカトリポカ」にも元消防局職員が臓器売買の一味として登場するが、市職員OBとしては複雑な気持ちである。浦賀和宏著「殺人都市川崎」（ハルキ文庫）は、いきなり大師の藩秀園で殺人鬼が登場するタイトルのままのスプラッター小説である。辻村深月は「朝が来るーあなたは誰ですか」（文春文庫＝映画化）で、小杉のタワーマンションを舞台に、不妊治療・特別養子縁組をテーマに描いた。深沢潮は「緑と赤」（小学館文庫）で溝口に住む在日コリアン女性、「ひとかどの父」（朝日文庫）で桜本の在日コリアン家族を書いた。

漫画では、「神奈川に住んでるエルフ」鎧田著（マイクロマガジン社）では、なぜか県内都市がすべてエルフ（妖精）なのに川崎だけが唯一人間で登場し、ボケをかましていく。いいテーマのものはない。

このようなことを受けてだろうか、川崎市は市政だより9月号で川崎の治安問題が悪いイメージを払拭する特集を組み、イメージアップを図ろうとしたが、川崎を舞台にした明るいイメージの本を表彰する制度をつくるのも一考だろう。



川崎市の主な動き 2021年7月～9月

7月

1日 藤子ミュージアム10周年記念原画展 1年かけ680点公開

市藤子・F・不二雄ミュージアム（多摩区）は開館10周年を記念した原画展を1日から開催する。主な作品を年代順に紹介し、初期から晩年までの軌跡をたどる。テーマ展示コーナーも設置し、3か月ごとに入れ替えながら約680点を1年かけて公開する（2022年6月30日まで）。第1期（10月4日まで）は「ドラえもん」「パーマン」などの代表作品のほか、「ぬすまれた王女さま」「死刑執行者」など初期の未発表原画を展示。

1日 「差別許さぬ視線が社会に芽生えた」 ヘイト禁止条例1年

市差別のない人権尊重のまちづくり条例の全面施行から1年を迎えた1日、市民団体『『ヘイトスピーチを許さない』かわさき市民ネットワーク』が川崎区で記念集会を開いた。ノンフィクションライターの安田浩一さんは、「死ね、殺せと堂々と言えなくなったのは成果。差別を許さない市民の視線が社会に芽生えたからだ」と評価、「差別するための表現の自由ではなく、差別が嫌だといえる社会をつくらねばならない」と呼びかけた。

4日 「純川崎産」ワイン誕生 特区認定麻生区で

市内でブドウ栽培から醸造まで一貫生産された純川崎産ワインの完成披露会が4日、開かれた。農業生産法人カルナエスト代表の山田貢（39）さんが、昨年3月麻生区に認定された「かわさきそだちワイン特区」を活用して果実酒製造免許を取得し、栽培開始から足掛け9年で「蔵邸ワイン岡上ロゼ2020」の完成にこぎつけた。酸味があり華やかな香りが特徴の辛口のロゼワイン。小売りはせず、「蔵邸ワイナリー」（同区岡上）に併設のワインバーなどで提供。

6日 「多摩川スカイブリッジ」に 川崎と羽田結ぶ連絡橋の名称

市は6日、羽田空港と市臨海部の殿町地区をつなぐ新しい橋の名称が「多摩川スカイブリッジ」に決まったと発表した。市と東京都が橋の名称を募集し、国内外から8498件の応募があった。最多は「スカイブリッジ」だったが、兩岸の地域住民の愛着という面を踏まえて「多摩川スカイブリッジ」（12位、56件）が選ばれた。長さ約675㍍、幅約17～21㍍で、河口に最も近く人が渡れる多摩川の橋で最長。本年度末の開通予定。

12日 災害リスク避け利便性考慮の移転を 市民ミュージアム答申

2019年の台風19号で被災し休館中の市市民ミュージアム（中原区）の今後の在り方について、市文化芸術振興会議（会長・垣内恵美子政策研究大学院大学教授）は12日、福田市長に答申を提出。現在地での再開はせず、水害や土砂災害のリスクを避け、利便性を考慮した場所への移転検討を求めた。さらに「博物館、美術館を融合したミュージアムの強みをいかす」とし、地域の歴史と文化の記録・継承、被災の事実を時代に伝えるなど9項目の活動の方向性を示した。

16日 市水道100年の記念式典

川崎で初めて水道ができてから100年を記念した式典が16日、カルッツかわさき（川崎区）で開かれた。公募市民ら約300人が招かれ、福田市長らのあいさつ、大沢太郎・市上下水道事業管理者の百年の歩みの説明があった。記念講演では東京都市大の長岡裕教授（水環境工学）が川崎の水道の強みについて、地形の高低差を利用しての省エネの仕組みや直営事業である点を指摘した。

17日 「子どもたちに星空を」 宙と緑の科学館で50周年式典

今年8月に開館50周年を迎える「かわさき宙（そら）と緑の科学館（旧市青少年科学館）」で17日、記念式典が行われた。同館は「公害のまち」と呼ばれていた川崎の子どもたちに「星空を見せたい」との願いを込め、1971年にプラネタリウム館として開館。2012年には市出身のプラネタリウムクリエイター大平貴之さんが開発した最新鋭機器などを導入し、リニューアルオープンした。これまで400万人以上の来場者を数える。

27日 量子コンピューター国内初稼働 かわさき新産業創造センターに設置

東京大学と日本IBMは27日、日本初となる商用量子コンピューターを「かわさき新産業創造センター」（幸区）に設置し、稼働を始めたと発表した。トヨタ自動車などが参加する産学の協議会が利用主体となり、素材開発や金融分野での導入に向けて研究に取り組む。量子コンピューターは、スーパーコンピューターで長時間かかる計算を短時間で終える次世代高速計算機で、将来の産業競争力を左右するとされる。

8月

3日 6年ぶりに交付団体に コロナ対策費増で

2021年度の普通交付税の配分が3日決まり、市は6年ぶりに交付団体になった。2016年度以降、政令市で唯一の不交付団体だったが、20の政令市すべてが交付団体となった。交付の算定根拠の基準財政需要額が新型コロナウイルス対策などで前年度比約81億円増加。一方、税収などの基準財政収入額が個人・法人税などの減収により83億円減となった。福田市長は「交付か不交付か毎年度ぎりぎりの状態で、不交付だから苦しんできた部分もあり、複雑な心境」と述べた。

10日 手数料のキャッシュレス決済10月から 幸区役所で試行後

市は10日、住民票の写しなどの手数料のキャッシュレス決済を23日から幸区役所で先行導入すると発表した。同区役所での試行を経て、10月1日から他の区役所や支所区民センターで本格実施する。対象は、戸籍、住民票や市税証明書などの手数料で、クレジットカード2種（ビザ、マスターカード）、Suica（スイカ）、PASMO（パスモ）などの電子マネー13種で支払うことができるようになる。

14日 パラリンピック採火式 各区から持ち寄り「かわさきの火」

東京パラリンピックの聖火を採火する「聖火フェスティバル」が14日、等々力緑地（中原区）で行われた。この日までに7区がそれぞれ独自の方法で採火した火を各区の代表者が一斉に聖火皿に集め、「かわさきの火」をつくった。完成したかわさきの火は2024年のパリパラリンピック出場を目指す市内在住で水泳選手の風間健太郎さんと出口舞さんが持つトーチを経て、ランタンに移された。

19日 流出額18億円増の81億円 2020年度ふるさと納税

2020年度のふるさと納税で市への寄付額は2億5300万円（前年度比1億2千万円減）で、昨年返礼品を見直し、市内音響メーカーのヘッドホンなどの導入により台風被害への寄付は減ったが返礼品付きの寄付は3.5倍に増えた。一方、他自治体に寄付したことによる税控除額（流出額）は81億7千万円（同18億円増）。本年度は地方交付税の交付団体に転じたため、ふるさと納税による減収の補填を見込め、これまで実質的に最も流出額の影響が大きかったが政令市で4番目となった。

20日 過去最多806人のコロナ感染 市発表

市は20日、過去最多の806人の新規コロナ感染者を発表した。これまでの最多は13日の711人で、これを95人上回り更新した。また、幸区の50代の女性の死亡を発表。17日に陽性が判明した際には発熱や基礎疾患はなく肺炎や呼吸不全の症状で中等症と診断され、19日入院先の市内の病院で死亡が確認された。県もこの日、県内で1日あたりの感染者として過去最多の2878人の感染を明らかにした。

22日 自由社の中学歴史教科書採択せず 市教委

市教育委員会は22日、市立中学校の歴史教科書について採択を行い、現在使用している教育出版版を2022年度から3年間継続することを6人の教育委員の全会一致で決めた。戦後の歴史教育を「自虐史観」と批判する「新しい歴史教科書をつくる会」の流れをくむ自由社版は不採択とした。自由社版は19年度の教科書検定で不合格になったが再申請で合格したため、市教委は再採択を行った。

23日 リニア大深度地下工事は安全か 中原区で住民説明会

大深度地下を掘り進めるリニア中央新幹線のシールドトンネル工事を巡り、JR東海は23日、中原区内で住民説明会を開いた。東京都調布市の東京外郭環状道路の工事で起きた陥没事故を受けた開催で、75人が参加。リニアは東京・神奈川・愛知の都市部で外形約14メートルのトンネルを掘る計画。市内は中原区等々力麻生区片平の約16.3キロの地下を通る。参加者からは「大深度工事が安全の前提は外環道の事故で崩れた。巨額の費用や減退する交通需要からもありリニアは必要か」の意見も出た。

- 24日 富士通3選手にスポーツ特別賞 東京五輪女子バスケ「銀」**
市は24日、東京五輪バスケットボール女子日本代表として史上初の銀メダルを獲得した「富士通レッドウェーブ」所属の町田瑠唯（28）、宮沢夕貴（28）、オコエ桃仁花（22）の3選手に、市スポーツ特別賞を贈ると発表した。同チームは中原区を拠点に活動し、女子バスケ「Wリーグ」に参加、市の「かわさきスポーツパートナー」にも認定されている。ハートをかたどったガラス製記念品と副賞10万円が贈られる。
- 26日 ごみ持ち去りに罰金 条例改正案提出**
市は26日、9月2日開会の市議会定例会に、集積場の資源ごみや家庭ごみの持ち去りを禁止する罰則付き改正条例案を提出すると発表した。対象ごみは全品目で、持ち去りをした人に指導をした後も持ち去りを続けた場合、禁止命令書を交付、命令に応じない場合、警察に告発し、20万円以下の罰金を科す。市は悪質な事業者の持ち去りを防ぐことが目的で、ごみ集めを生活の糧としているホームレスの人には自立支援事業を一層強化するとしている。
- 27日 市立看護大4年制に 文科省審議会認可答申**
市立看護短期大学（幸区）の4年制大学への移行を文部科学省に申請していた市は27日、大学設置・学校法人審議会が設置認可の答申をしたと発表した。保健師30人の養成コースを新設、入学定員は1学年80人から100人に増やし、教授や教員は25人から37人に拡充する。学長は同短大の坂元昇学長が就く。市は、学生の4年制大学志向や3年生の短大ではカリキュラムが過密として、昨年10月に新設認可の申請をした。
- 27日 カワサキハロウィン終幕 1997年誕生国内最大級**
JR川崎駅周辺で毎年10月末に開催される国内最大級の「カワサキハロウィン」の終了が27日発表された。事務局のチッタ エンタテイメントによると、カワハロは1997年シネマコンプレックス「チネチッタ」の10周年を記念して始まり、やがて商店街や市など25団体が主催する官民一体の一大イベントに。最後の仮装パレードとなった2019年は参加者約2千人、沿道には観覧者約12万人が訪れた。
- 30日 台風で被災の市民ミュージアム解体 休館中**
市は30日、2019年の台風19号で浸水して休館中の市民ミュージアム（中原区）を取り壊すと発表した。1988年に建築家・菊竹清則が設計し開設された同館は、築30年以上の老朽化に浸水被害で復旧に約26億円が見込まれ、洪水浸水想定区域内にあることから再被害も懸念され復旧を断念した。同館では水没した収蔵品約23万店の修復作業が続いている。解体費用は約20億円以上かかる見通し。
- 30日 中断の南武線立体交差事業継続へ 新工法採用で費用214億円減**
市は30日の市議会まちづくり委員会で、JR南武線連続立体交差事業に線路を直接高架化する新たな工法を採用し、手続きを中断している事業の継続を目指すとした。武蔵小杉－矢向間の4.5キロ区間で現線の西側約8㍍の高さに下り、上りの順で高架橋を敷設。現工法と比べて総事業費は214億円少ない約1387億円、事業期間も5年短い約16年で済むと試算した。下り線の高架切り替え後は、上り線のみ踏切通過となるため「開かずの踏切」解消も6年程度早まる。
- 31日 官学連携で福祉製品の開発拠点 日進町に「ウェルテック」開設**
31日、「市複合福祉センターふくふく」（川崎区日進町）に官学連携の福祉製品の開発・改良拠点「カワサキ ウェルフェア テクノロジー ラボ」（ウェルテック）がオープンした。市、東京工大、産業技術総合研究所が連携して運営する。中小企業が手掛ける福祉用具の新製品の安全性、性能についての検証や技術的な支援にあたる。広さは約40平方㍍、介護ベッドや洗面台などを備えた高齢者向けの個室を再現し「模擬環境ラボ」を設けた。
- 9月**
- 1日 往診報酬に市独自基準 自宅療養者への医療支援強化**
新型コロナウイルス感染症の自宅療養者が増える中、市は医師の往診や訪問看護、薬の配送など自宅療養者への医療支援に対し、通常よりも高い独自の報酬基準を設ける。医師の往診（電話・オンラインを含む）1回5万円（通常約2万7千円）、看護師2万円（同約1万3千円）。薬の配送では当番薬

局1か所に1万円、薬の配送に1回500円を払う。8月20日現在、市内医療機関のうち電話・オンライン診療50か所、往診16か所が協力する意向。

6日 「みなと祭り」3年連続中止

新型コロナウイルスの拡大を受け、「川崎みなと祭り」の実行委員会（委員長・斎藤文夫川崎港振興協会会長）は6日、10月9、10日に川崎マリエン周辺で開催予定のメインイベントを中止すると発表した。2019年は台風19号、20年もコロナの影響と3年連続の中止となった。毎年、出店や川崎港ミニクルーズなどを行い、18年は25万1千人が来場。今年は川崎港開港70周年で、記念誌の発行や式典を予定している。

7日 黒木さん、地名研究所らに市文化賞

市は7日、2021年度の「第50回川崎市文化賞」などの受賞者6人、2団体を発表した。文化賞は中原区の医学博士黒木登志夫さん（85）、「日本地名研究所」（高津区）、市文化財団顧問の北條秀衛さん（75）、「ゆりがおか児童合唱団」（麻生区）。社会功労賞はハンセン病回復者の石山春平さん（85）、高津区の医師片岡正さん（69）。今後の活躍が期待されるアゼリア輝賞は俳優の加藤梨里香さん（23）、サクソフォン奏者の齋藤健太さん（28）にそれぞれ決まった。

23日 ニュータンメン味ポップコーン チネチッタで販売開始

JR川崎駅前の映画館「チネチッタ」で23日から、ニュータンメン味のポップコーンが販売される。同館を運営する「チッタ エンタテインメント」と市内のラーメン店「元祖ニュータンメン本舗」の共同企画。ニュータンメンはニンニクやトウガラシが効いた「川崎のソウルフード」。チッタ側の申し出でポップコーンフレーバーを開発、絶妙なうま味と辛味が再現された。緊急事態宣言下だが、会話をしない上映中の飲食は可能。Mサイズのみで440円。

27日 被差別部落の地名掲載違法 東京地裁判決

被差別部落の地名リストをウェブサイトに掲載、書籍化するのは「差別を助長する」として、部落解放同盟らが多摩区の出版社「示現舎（じげんしゃ）」側に削除や計約2億6500万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で東京地裁は27日、「出身者が差別や誹謗中傷を受ける恐れがあり、プライバシーを違法に侵害する」とし、示現舎側に該当部分のサイト削除と出版禁止、計約488万円の賠償支払いを命じた。現在の住所、本籍が地名リストにない場合や個人情報情報を自ら公にしているケースは侵害を認めなかった。

30日 世界初EVタンカーの運航拠点に 川崎港

東京電力エナジーパートナー（EP）と市などは30日、電気で動く「EVタンカー」の普及を目指し、市の港湾施設内に船の給電設備を設置する協定を締結した。旭タンカー（東京）が建造中の世界初というEVタンカーを利用、2022年4月に運航開始予定。タンカーは全長62メートル全幅10メートル総トン数499トン、電気自動車100台分に当たる3480個の電池を搭載。東京湾内で朝から夕方まで重油を運搬し、夜間に港で充電する。1日に60キロ（約111キロ）の航行が可能。

30日 麻生区にリニア立て坑完成 大深度地下深さ94メートル直径32メートル

JR東海は30日、リニア中央新幹線の工事拠点となる立て坑「東百合丘非常口」（麻生区）が完成したと発表した。リニアは都市部では地表から40メートル以上の大深度地下を走り、立て坑はトンネル掘削用のシールドマシンを下すもので、開業後は非常口となる。東百合丘非常口は穴の直径が約32メートル、深さが約94メートル。立て坑は東京、神奈川、愛知に計13本建設予定で4番目に完成した。



市役所本庁舎建設工事の状況
地表から見た写真
鉄骨が立ち上がってきた
(2021/10/20現在)



市役所本庁舎建設工事の状況
上から見た写真
(2021/10/20現在)

※「川崎市の主な動き」は、川崎地方自治研究センターのホームページ

「市政ウォッチャー」からの抜粋です。詳しく知りたい方は、ホームページまで。